

2. 虐待等困難事例への総合支援・対処のシステムと活動

1～4層の生活圏域別A～Eの各委員会所属関係者による定期・随時の活動が虐待事例への適確な対処、サービスの質・量の充実に繋がっている。

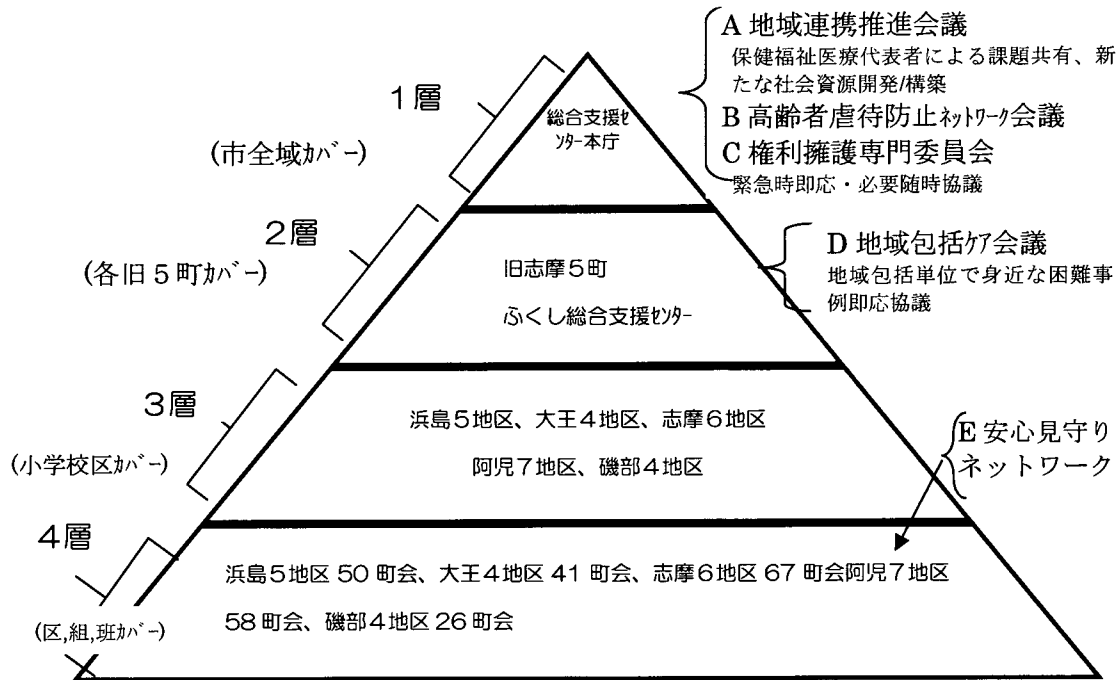


図1 総合相談支援システムにより展開するネットワーク

<1層……本庁内の志摩市ふくし総合支援室（地域包括支援センターを含む）>

A:地域連携推進会議（年3回開催）

市内の保健・医療・福祉の代表者、消防署、警察署などが集まり、問題解決のための情報共有、課題解決のための社会資源開発の協議などを行う組織。

B: 高齢者虐待防止ネットワーク代表者会議（年3回開催）

市内の保健・医療・福祉、弁護士など委員代表が、虐待対応の報告を受け、高齢者虐待等虐待防止事業や予防事業に対する協議を行う組織。

C: 権利擁護専門委員会（必要に応じ随時開催）

虐待事例の対応について、必要即応に集まって緊急入院・入所措置の決断と決定を行う。また、成年後見人市長申し立てへの助言を行う。行政責任として市民の生命・安全を守るために必要な措置を迅速に決定し実行する際、関係機関による多角的な情報収集と検討を行い総合的・的確な判断をする組織。

<2層……旧5町の各地域ふくし総合支援センター（地域包括支援センター-保健師を配置）>

D: 地域包括ケア会議（各町単位で年3回開催）

町内の関係機関や自治会、ボランティア等が集まり、町レベルの福祉課題を情報共有し、困難事例解決のための、適切な支援・対処、必要なサービス資源確保検討組織。

<3層、4層……旧5町の各区、組、班の「見守り協力員」と地域包括支援センター>

E: あんしん見守りネットワーク

支援困難事例の早期発見・顕在化に市民ボランティア、自治会、金融機関、商店会等が参加。

3. 市民によるあんしん見守りネットワークと活動

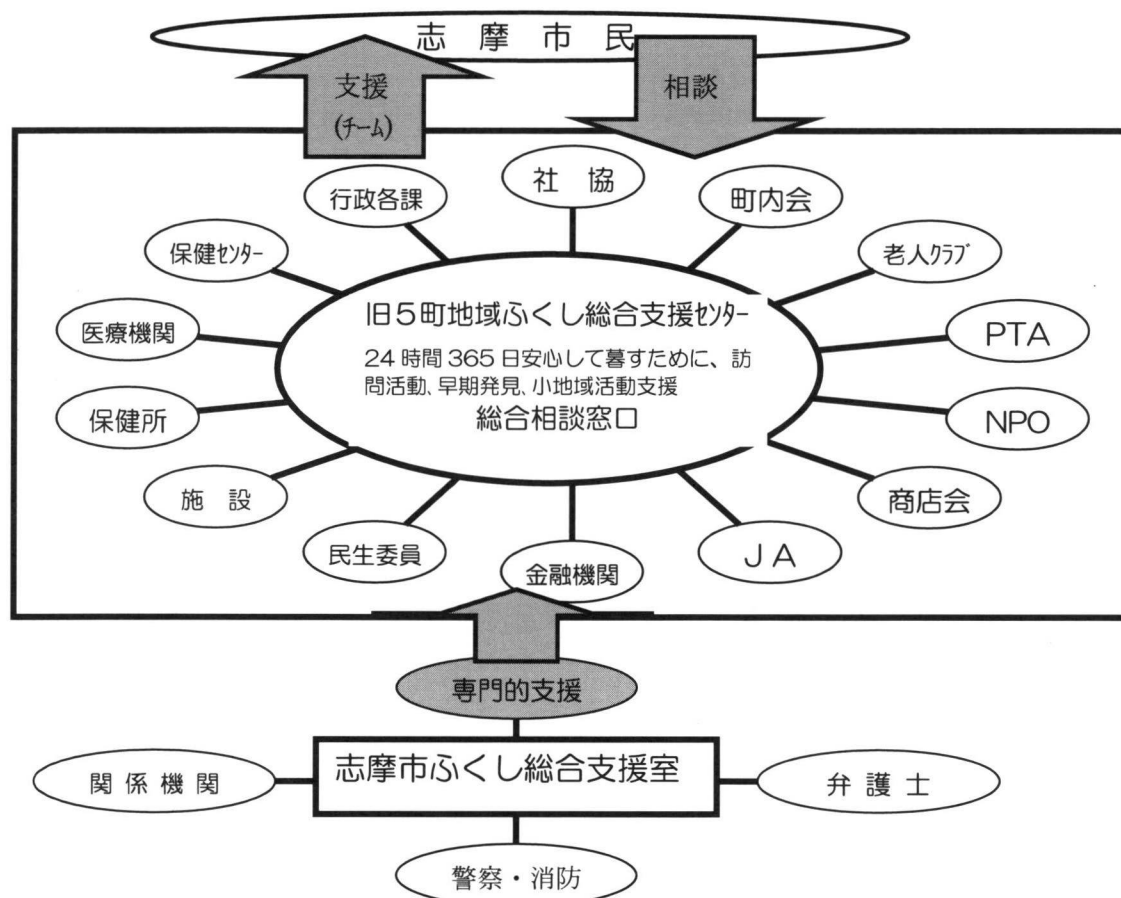


図2 市民サイドの「あんしん見守り協力員」のネットワークによる活動

E: あんしん見守りネットワーク

地域で生活するすべての人々は、「健康と安心なわがまちづくり」、コミュニティづくりのために役割を持つ社会資源と考え、支援困難事例や、支援を必要としている潜在事例の顕在化のための見守り活動「あんしん見守り協力員」登録・参加を募った。登録している町内会や金融機関、商店、民生委員など（図2）、数多くの地域の関係者と協力・連携を図り次の活動を行っている。

- 1) 高齢者や子ども、障がい者など弱者に対する虐待の早期発見
- 2) 生活困窮や困りごとがあっても訴えることができない家庭の早期発見
- 3) 認知症のある徘徊高齢者の安全確保
- 4) 孤立死防止のための独居高齢者に対する安否確認 など

地域に密着した見守り活動を行うため、見守り協力員や一般住民用の啓発教育などを行っている。

- ・見守り協力員研修用「見守りチェックリスト」（資料1,資料2）
- ・見守り協力員、住民参加による演劇活動での啓発教育「認知症でも大丈夫—正しく知ってみんなを支えよう」シナリオ（資料3）

4. 志摩市ふくし総合支援室（地域包括含む）及び各地域ふくし総合支援センターと住民による「安全・安心のまちづくり」システム構築過程と活動展開

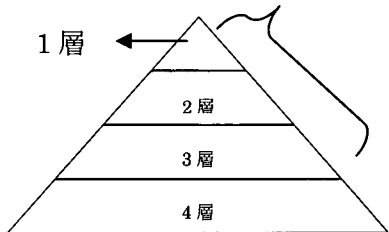
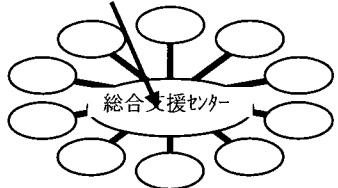
年次	住民行動	行政(地域包括支援センター)活動	住民(ボランティア等)の活動
平成 2000(H12)年 平成 2004(H16)年 平成 2005(H17)年	無関心期	<p>各町に介護保険開始、窓口誕生 → ○関係機関・専門職者・住民から信頼を得る活動実践</p> <p>① 相談への即応対応 ② 訪問活動重視した個別対応</p> <p>志摩市誕生(旧5町合併) 志摩市地域福祉計画策定作業 「すべての市民が24時間365日安全・安心して暮らすために」</p> <p>1)情報収集活動作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区座談会開催 23地区, 367人 ・井戸端会議(各種団体からの意見聴取) ・アンケート調査(15,000人) <p>2)課題・認識の共有</p> <p>3-1)教育・研修の実施</p> <p>民生委員, ボランティア 行政職員, 社協職員</p>	<p>在宅介護支援センター活動 PR</p> <p>「地域の困りごと、何でも話そうや」「地域の困りごと、何とかしようや」</p>
平成 2006(H18)年 平成 2007(H19)年 平成 2008(H20)年	準備期	<p>4-1)所属内相互サポート組織構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「医療・保健・福祉の連権を考える専門部会結成」 ・「志摩・ふくし夢まちづくり委員会」 ・「夢まちづくり委員会子どもプロゼク」 <p>教育委員会協力</p> <p>4-2)あんしん見守りネットワーク発足 登録 698人, 現在 770人</p> <p>5-1)総合相談支援システム誕生(図1参照) 圏域間・各層間連携</p>	<p>「窓口が多すぎてわからない」「縦割り、たらい回しにされる」</p> <p>3-2)住民教育・研修の実施 「地域福祉セミナー」5回開催。 まちづくりを考えるきっかけづくり。</p> <p>専門職有志 テーマ別8部会</p> <p>小中学生有志 中高生3級 ヘルパー養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過ごし場づくり部会 ・防災防犯を考える会 ・交通を考える部会 ・ボランティア部会 ・人づくり地域ぐるみ学 ・身近な相談窓口部会 ・子どもの権利を守る会 ・情報発信・キャッチ部会
平成 2009(H21)年	実行期 継続期	 <p>6-1)各圏域組織の役割・責任明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職用の虐待判断基準作成 ・福祉総合支援センターと1～4層の各運営のマニュアル作成 	<p>5-2)地域ふくし総合支援センター 総合相談窓口(図2参照)</p>  <p>6-2)住民見守組織の役割明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待早期発見見守り基準マニュアル作成・試行中 ・認知症高齢者対応キッズサポーター等養成

表 高齢者虐待等の発生状況

年度	高齢者虐待疑あり数	高齢者虐待確定数
平成 2006(H18)年度	46人	26人
平成 2007(H19)年度	82人	55人
平成 2009(H20)年度	101人	64人

三重県下で最も虐待認定率が高く、この表では増加傾向にある。これは地域の見守りネットワークが有効に機能していることを意味している。

5. 志摩市のセルフ・ネグレクト等見守りの早期発見、対処システムに学ぶ

1) 地域包括支援センター開設時の活動から

関係機関・専門職者・住民から信頼を得るため①②の実践。

- ① 相談窓口として、即応な対応
- ② 訪問活動重視による家庭状況把握と、適確な判断にもとづく個別対処

ヒント 担当地区を受け持ち、エリア内の戸別訪問を重視する活動手法は、「地区担当保健師が、何よりも家庭訪問活動を通して住民の健康と生活問題を適確に把握し、受けた相談に対しては、即行動して対処する。これができて初めて住民から信頼が寄せられる」という一定エリアを担当する専門職の初期活動の視点であり、活動手法の原点でもある。

2) 住民の見守り組織構築の手法（ステージ理論と各期の実践）から

行動変容モデル(Transtheoretical Model)の各ステージと、セルフエフィカシー(自己効力感)やファミリーストレングス(強み)などの介入理論を当てはめ分析してみる。

<無関心期>

- ① 住民及び、関係機関・専門職者等からの偏りの無い情報収集作業(前頁 1)の方法など
- ② 住民及び、関係機関・専門職者等と①を踏まえての解決すべき課題や認識の共有
- ③ 住民及び、関係機関・専門職者等への教育・研修の実践による意識の高揚

<関心期>

- ④ 教育・研修の実施(虐待事例紹介等を含めたドラマテイク・リリーフ体験(資料 3))
- ⑤ 所属内相互サポートシステム構築(前頁 2)3) 専門部会8部会、小中高校生有志会等)

ヒント 様々な情報収集作業を通して共有すべき課題や、ドラマテイク・リリーフ体験研修等を通しての考え方・価値観の共有は所属内相互サポートシステム構築に拍車を掛けた。

<準備期>

- ⑥ あんしん見守りネットワーク発足
 - ・地域内金融機関窓口及び集金等職員等への研修実施
 - ・地域内金融機関窓口及び集金等職員等の見守りボランティア協力員登録
 - ・地域内商店街等の商店主・店員等への研修、見守りボランティアとして登録
- ⑦ 認知症高齢者等、金銭の扱いに不安のある高齢者をあんしん見守りネットワークの見守り対象として登録

ヒント 年々増え続ける認知症高齢者の経済問題トラブルの早期発見の手段として、市内住民が最も信頼し利用している銀行員に対し認知症やパラサイト等による経済虐待問題の研修を行い、見守りボランティアとして登録して貰う事で、認知症高齢者の経済トラブルの早期発見や、トラブル回避につながり、併せて企業の社会貢献としての誇りも得られる。他金融機関やガス会社、電力企業、JA、近隣スーパー、商店街など社会貢献と競争意識も重なって市内全域に拡大。町内会等でも積極的に研修が次々と開催されている。

最も難しいと言われる経済虐待の早期発見ネットワーク構築に志摩市は成功している。

<実行期>

- ⑧ 高齢者、障がい者、小児などを含む相談窓口一本化による総合相談支援システム誕生
- ⑨ 支援・介入の段階で問題別に専門家チーム構築による組織的介入
- ⑩ 虐待等支援困難事例早期発見のためのドラマティック・リリーフ体験劇を住民同士が演ずる研修の導入による住民ボランティア組織育成

ヒント 保健と福祉の日常生活に関わる相談窓口一本化は住民にとっては利便性が高く、行政にも従来の縦断的な課別活動でなく、横断的な課の連結チームによる効率的な活動が可能となる。特に図1の1層内の組織のA,B,C会議・委員会が機能するには、ハード面でも志摩市のように、同一フロアで関係課員が常時顔をあわせている状況がのぞましい。

住民への啓発研修は手作りのシナリオに、研修対象であるはずの当事者の住民ボランティアが自ら役者になり劇中の主人公になり声色を付きでセリフを読み上げ近隣町内住民に虐待劇を披露、劇披露後のディスカッションも含め演ずる側、観る側、双方の研修を同時に行えている。身近な住民が演じる様子は、観る側にも熱意が伝わりやすく、住民個人々の学習と併せ、町内組織の主体性とボランティア育成につながっている。

<維持期>

- ⑪ 1層～4層の圏域内組織の継続教育・研修の実施
- ⑫ 各圏域組織の役割・責任明確化を図るため、専門職用の虐待判断基準作成
- ⑬ 住民見守組織の役割明確化のため高齢者虐待早期発見見守り基準マニュアルを作成
(添付資料1:虐待発見協力員用チェックリスト, 資料2:ご近所見守り用チェックリスト)
- ⑭ 新規ボランティア人材の育成・確保
 - ・認知症高齢者対応キッズサポーター養成講座
 - ・地域ぐるみ学ぼう会、市民地域交流会、中高生ヘルパー養成講座、こどもボランティア養成

ヒント 住民見守組織用の高齢者虐待早期発見見守り基準マニュアルを作成し、住民ボランティアの見守れる範囲と限界を明らかにし、住民が必要以上の責任・負担を負うことなく、早期に地域包括に困難事例を報告し、専門職に支えられながら共同して活動遂行することで、ボランティアの中途辞退が避けられ役割の継続維持につながる。

まとめ

志摩市の高齢者支援困難事例の早期発見、特に今回認知症を中心とする経済的虐待等の早期発見のための見守りボランティア育成と、その活動の過程を時系列に並べ分析した行動変容モデルの各ステージの中から得られたヒントは、これから高齢者等のセルフ・ネグレクトや困難事例の早期発見、対処システム構築に取り組む市町村には参考になるものと考えます。

今回の視察に快く応じていただき、本章の図1, 2をはじめ、様々な資料提供をいただきました志摩市ふくし総合支援室ならびに同室の社会福祉士前田小百合氏に心からお礼申しあげます。

記録:津村智恵子(甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科)

気になることがあれば、ご連絡ください。

高齢者等の状況チェック連絡票

(記入日) 平成 年 月 日
(記入者)
(連絡先)

対象者氏名	住 所
サイン	
あてはまるところに☑を入れてください。	
チェック欄	
	自宅から怒鳴り声や悲鳴、物が投げられる音が聞こえる。
	庭や家屋の手入れがされず荒れている。多くのゴミが放置されている。
	郵便受けや玄関先等が、手紙や新聞で一杯になっている。
	気候や天候が悪くても、高齢者が長時間外にいる姿がしばしば見られる。
	家族と同居している高齢者が、店で一人分の野菜等を頻繁に買っている。
	近所つきあいがなく、訪問すると嫌がられる。また、福祉関係者の訪問を嫌がる。
	高齢者が道路ですっと座り込んだり、うろうろ歩いている。
	身体に不自然なアザや癬があり、説明がしどろもどろしている。
	高齢者に無力感、あきらめ、投げやりな様子がみられる。
	財産や貯金などがあるのに、「お金がない」と訴える。
	「年金を取り上げられた」「通帳をとられた」と訴える。
	居住部屋、住居が極めて不衛生である。衣類やおむつ等が散乱している。
	いつも同じ衣類を着ていたり、汚れたり、破れたりしている。気候にあった衣類を着ていない
	身体から異臭がする。入浴している様子が無い。
	家族から、世話や介護に対する拒否的な発言がたびたび聞かれる。
	介護者が「疲れている」「眠れない」「体調が悪い」と訴える。
	必要なのに薬を飲んでいない、病院に行っていない。

その他、気づいた点についてご記入ください。

- ※ このチェック票は、地域で生活することが困難な方の早期発見などに活用します。
- ※ お電話だけでもけっこうですので、情報をお寄せください。社会福祉士や保健師、看護師が訪問し、本人や家族と話をしながらこれからの生活を支援していきます。

問い合わせ先: 志摩市ふくし総合支援センター
(志摩市福祉事務所内)

電話 43-8132 FAX 43-4461

こんな人を見かけませんか？～協力員さん、見守りシート

	見守りをお願いします	ふくし総合支援室（44-0280）へご相談ください
生活	<input type="checkbox"/> 近隣とのつきあいがいい <input type="checkbox"/> 親族とのつきあいがいい <input type="checkbox"/> 生活環境が悪い	<input type="checkbox"/> しばらく顔を見ていない <input type="checkbox"/> ゴミがあふれてイヤな臭いがする <input type="checkbox"/> 衣類が汚れたままになっている <input type="checkbox"/> 昼間でも雨戸が閉まっている <input type="checkbox"/> 新聞、郵便物がたまっている <input type="checkbox"/> 電気、ガス、電話が止められている <input type="checkbox"/> 本人が「死にたい」と言う
家族	<input type="checkbox"/> 介護者が病気 <input type="checkbox"/> 介護者に障害がある <input type="checkbox"/> 介護者と高齢者が長年不仲である <input type="checkbox"/> ひとり暮らし <input type="checkbox"/> 2人世帯 <input type="checkbox"/> 介護者が朝から酒を飲む	<input type="checkbox"/> ケンカばかりしている <input type="checkbox"/> 高齢者に冷たい発言や態度をとる <input type="checkbox"/> 家族が高齢者に暴力をふるう <input type="checkbox"/> 「高齢者が施設に入れてくれ」という <input type="checkbox"/> 介護者が、「介護が大変で、このままならどうにかなる」と言う <input type="checkbox"/> どなり声や泣き声がある
からだ	<input type="checkbox"/> 自由に外出できない	<input type="checkbox"/> ヒゲ、髪、爪が伸びたままになっている <input type="checkbox"/> 最近、目立ってやせてきた <input type="checkbox"/> 「おなかが空いた」「食べさせてもらえない」と訴える <input type="checkbox"/> 顔や手足に内出血や傷がある <input type="checkbox"/> ふらふらになって歩いている
認知症	<input type="checkbox"/> 車の運転が危ない <input type="checkbox"/> 少しものの忘れが目立つ <input type="checkbox"/> 同じことを繰り返してしゃべっている <input type="checkbox"/> ゴミの分別ができない <input type="checkbox"/> 家族が介護の悩みを周囲に話している	<input type="checkbox"/> 夜間に出歩いたり、道に迷ったりしている <input type="checkbox"/> 同じ物を何度も買って来る <input type="checkbox"/> 知っている人に、初対面のあいさつをする。 <input type="checkbox"/> 通帳やお金をなくす、管理できない <input type="checkbox"/> いつもアザや傷がある <input type="checkbox"/> 支払いを巡って、店先でトラブルになった
経済状況	<input type="checkbox"/> いつも同じ服を着ている <input type="checkbox"/> 子どもが働いていない <input type="checkbox"/> 以前よりも生活が質素になった <input type="checkbox"/> お小遣いを持っていない	<input type="checkbox"/> 食べるものがほとんどない <input type="checkbox"/> 通帳や印鑑を盗られたと訴える <input type="checkbox"/> 家の中に訪問販売品があふれている <input type="checkbox"/> 年金があるのに、お金がないと訴える <input type="checkbox"/> 通院が必要なのに、どこの医療機関にも通院しなくなった

高齢者虐待防止のために(シナリオ)

出演者

- ① 民生委員
- ② 中村さん
- ③ 小川さん
- ④ 田中さん
- ⑤ 鈴木さん
- ⑥ 木村さん
- ⑦ 木村さんの長男のお嫁さん
- ⑧ 木村さんの二男のお嫁さん
- ⑨ 山田さん
- ⑩ 山田さんの息子
- ⑪ ナレーター

●ナレーション
ただいまから高齢者虐待防止のための劇を始めます。虐待は、特別な家庭で起こることではありません。みなさんの家でも、いつ起こるかわかりません。もし自分だったらどうだろうか・・・と、考えながらこらんただけだと思えます。なお出演者は素人ばかりです。失敗もあると思いますが、温かい目で見ていただけたらと思います。

ここは、いきいきサロンの例会の場です。中村さん、小川さん、田中さん、鈴木さんがおしゃべりをしています。

中村さん 寒なってきたなあ。風邪も引かへんか。
小川さん ああ、上等や。毎月、このいきいきサロンに来るのが
楽しみや。

田中さん なあ、ところで、最近、山田さんがサロンに出てこな
いけど、どうしたんやろねえ。

鈴木さん 3カ月ほど前に例会で会ったときは、「東京から息子が
帰ってくるんや」と言いながら楽しみにしとったのに

なあ。まさか、家に鍵でもかけられて閉じ込められ
るんと違うやろか？

中村さん それは、木村さんとこのじいさんのことやわ。あのじ
いさんは、1回か2回、道に迷って警察に保護されて
から、息子の嫁さんに家から出してもらえへんようにな
ったんやって。

●ナレーション

ここは木村さんの家です。木村さんと長男の嫁さんと次男の嫁さ
んがなにやら口げんかをしています。

嫁さん⑦ ちょっとちよつと、おじいさん、どこに行くの？

木村さん どこって、天気さええで散歩に行くんや。

嫁さん⑦ 出ていったら危ないって言ったやろ。車も多いし、海
も近いし・・・。また警察から電話もろたら恥かくわ。

木村さん わしは、散歩がしたいだけなんや。

嫁さん⑧ ねえさん、おじいさんもこう言うとするし、ちよつと出
て行くくらい許してやったら？

嫁さん⑦ いかん、いかん。部屋に戻って動かんといて。

どうせ、よそに行つて、嫁が何にも食べさせてくれへ
んって悪口を言う気やろ。

嫁さん⑧
嫁さん⑦

ねえさん、そんなことをしたらかわいそうやわ。
そんなこと言うんなら、ために1週間でええからこのおじいさんを預かってみない。あんたみたいな弟の嫁は、たまに来てうまいことばっかり言つて何にもしてくれへんやないの。毎日、一緒におるもんの身になつてみない。

嫁さん⑧
木村さん

それは無理やわ。私も父さんも真珠養殖が忙しいし。・・・
そうや、お前が兄きの嫁さんなんやで、わしの面倒をみるのが当たり前や。

嫁さん⑦

おじいさんは、いつも弟の嫁ばかり大事にして。これからお漏らししたらご飯は1回抜きやんな。

嫁さん⑧

ねえさん、それはひどいわ。ご飯を食べさせなかつたら、やせていくやないの。

嫁さん⑦

あんたに兄きの嫁の気持ちはわからん。おじいさんはもう90歳、いつまで生きる気やろか。・・・私もたいがいヒマをもらいたいわ。根性の悪い年寄りほど長生きするんやわ。

木村さん

もうケンカはやめてくれ。わしさえガマンしたらええんやろ。

●ナレーション

場面は再び公民館へ戻ります。中村さん、小川さん、田中さん、

鈴木さんが、またおしゃべりをしています。

小川さん

なるほど、こんな様子なんやなあ。

中村さん

おに嫁やな。

田中さん

わしんとこの嫁さんのほうが、まだましやな。

みんな

ああ、おそろしい、おそろしい。

小川さん

どこへ行ったかわからんようになると、役所や消防にも探してもらわんといかんし、迷惑かけるし、鍵をかけたられても仕方ないわなあ。

鈴木さん

私はわかる気がするわ。長男の嫁は、どんなにがんばって介護をしても当たり前やと思われて、誰もお礼を言つてくれへん。他の子どもや兄弟が「ありがとう」と一言いつてくれるだけでも、気持ちは違うもんやわ。

中村さん

そうやなあ、嫁さんに感謝しないといかんなあ。

田中さん

昔とは時代が違うわ。ご飯を食べさせてもらえんのは困るわ。嫁さんのほうが強いしなあ。

民生委員

ちよつと待つてくれんか。今の話をもう一度みんなまで考えてみたらどうや。嫁さんに感謝しないといかんというのは確かやが、がまんばかりでええんか。人間は年を取るのには当たり前。誰でもいつかは通る道。年を取つたら、何回も同じことを言うし尋ねるもんや。おしつこやうんことを失敗することもある。当たり前と違うんか。

田中さん

そう言われてみればそうやなあ。

鈴木さん

私もいつボケるかわからん。

みんな

そうや、そうや。明日は、わが身かもしれんなあ。

民生委員

家に閉じ込められたり、おしつこやうんこの失敗でご飯を抜きにされたり、家で家族みんなから無視されるのは、「高齢者虐待」や。65歳以上の人はみんな法律が守つてくれるんや。

小川さん

高齢者虐待というと、大げがさせられたり、ご飯を食べさせてもらえなかつたりすることだけと違うんやな。

民生委員

その上、志摩市は40歳以上の介護の必要な人も法律と同じように守れるような条例を作っとらんや。テレビのニュースみたいにならんように、早めに志摩市のふくし総合支援室へ相談することが一番や。

中村さん

ふくし総合支援室を覚えておかないかな。

みんな

そうや、そうや。

田中さん

なあ、もしかしたら山田さんも、その「高齢者虐待」という目にあつとるといかなで、家に様子を見に行つてみようか？

小川さん

サロンが終わつたら、みんなで訪ねていつてみよか。

●ナレーション

みんなで山田さんの家に行ってきました。家の中から山田さんと息子の話し声がします。民生委員さんが玄関先まで行きました。

山田さん

なあ、こつちに戻ってきて3か月もたったのに、まだ働くところが見つからんのか。たいがい仕事をしたらどうや。

息子

うるさい、ばばあ！そんな簡単に、こんな田舎で気に入った仕事が見つかるか！

山田さん

気に入るや気に入らんやと言つたら、食べていかれへんがな。何でもしてみたらどうや。

息子

ばあさんの年金が入ってくるんやでええやろ、くどくどと何回も言うやと殴るぞ。うるさいわ！

山田さん

お前が帰ってくるまでは、老人クラブの旅行やいきいきサロンに自由に行けたのに、今はお前に年金をもつ

息子

ていかれて食べることも苦労するわ。
あんたがこんなふう育てたんやんか！いつかは全部おれのものになる財産を先に使つて何が悪いんや。ああ、むしゃくしゃする、パチンコにでも行つてくるぞ！
★ここで息子は出ていく。

山田さん

こんな子にしてしまったのは、私のせいなんかなあ、私が悪いんやろか……。この子しか子どもはないし、私がまんするしかないんやろか。(泣く)。

(息子は出ていき、民生委員、中村、小川、田中、鈴木が登場)

民生委員

山田さん、こんにちは。

山田さん

ああ、民生委員さん、どうしたんやな。

民生委員

さっきの様子を見とつたけど、大変やな。

山田さん

世間体が悪いから、誰にも言わんといてな。

民生委員

サロンのみんながあんたのことを心配して来とらんや。

山田さん

みんなに心配かけてすまんなあ。

鈴木さん

どこのうちでもいろいろある。世間体なんか気にしたらいかんわ。

田中さん

早めに相談してくれたらよかつたのに。

小川さん

そうやわ、あんた、ようやせたなあ。

民生委員

このまま、がまんするんかな。山田さんの年金は山田さんが使う権利があるんやんな。

山田さん

息子は、普段は悪い子と違うんやわ。やさしいええ子

なんやけども、仕事がないからストレスがたまつてパチンコ屋に行つてしまふんやわ。

民生委員

普段はええ子でも山田さんの年金でパチンコして、山田さんが自由に使えんようにしとらんやろ？こんなふうにしていたら、息子は仕事を探さへんのと違うんか。

中村さん 甘やかしたら、ますます働かずに金をせびって、断ると殴られるようになる。それがひどくなったら虐待ということや。

田中さん 息子に面倒をみてもらわなくても、介護保険もある。介護がいるようになったら、自分のお金でヘルパーさんを頼んだり、日帰りでデイサービスに行ったりするほうが嫌な思いもしないですむんな。

小川さん 今は、ええ施設もいっぱいあるしな。年金を簡単に息子に渡すのもいかん。自分の金は自分のために使えるようにしておかへんと、いざというとき何も利用ができません。

鈴木さん 家族だけに世話してもらおうのはいかん。どんなにええ人でも介護が長なってきたら、「いつまで生きとるんや」と嫌みのひとつも言いたくなるのが人間や。

中村さん そうそう、息子や嫁さんのマネをして「はよ、死んでけ、ばばあ」と孫にまで言われる家もあるんや。

田中さん 家族全員に無視されて、寂しそうにしとる年寄りもあるわ。育ててやった恩も忘れてなあ。

小川さん 私らが戦中戦後、一番苦労してきたんや。毎日もっと楽しく幸せに暮らす権利があるはずや。あんたにはあなたの人生がある。自分を大事にしないといかん。

山田さん そうやなあ、私もいつまでもこうしとるわけにもいかんし、私の年金やもんな。息子は息子で働いてもらわんとなあ。今まで甘やかしすぎたわ。

民生委員 自分の年金を取り返すのが難しかったら、志摩市のふくし総合支援室に相談したら力になってくれるで、いつでもわしに言ってくれ。

中村さん

山田さんの年金を家族が勝手に使うのは「経済的虐待」なんや。わしらも自分を守るためにもっと勉強をして、いざというときに備えておいたほうがええな。

山田さん

ありがとう。ふくし総合支援室の電話番号を覚えておかないといかんな。44の0280でよかつたんかいな。

みんなで

そうや、そうや。

●ナレーション

こうして山田さんは、息子さんから年金を取り返す決心をしました。みなさんも自分の年金は自分のために自由に使う権利があることを覚えておきましょう。

劇はこれで終わりますが、将来、自分の年金は誰に管理してもらうのか、介護が必要になったらどうするのか、普段からしっかりと考えておきたいものです。それが虐待防止にもつながります。自分も虐待を受けない、家族も虐待者にならないために、これからもみんなで高齢者虐待防止について考えていきましょう。

視察2 高齢者孤立死防止羽曳が丘まちづくり活動

1. 羽曳が丘地区の概要

1) 地勢環境概要

羽曳野市は大阪府の南東部、大阪市内から20キロに位置し奈良県境の二上山系に接する緑豊かな田園都市である。羽曳が丘は、この羽曳野市の中程に位置する丘陵地に昭和30年度後半から大規模な住宅開発で誕生した新しい街である。気候風土は四季を通じ平均15～17℃と温暖で降雨量・日数は全国平均並みである。

交通網は、主として近鉄線が用いられている。羽曳が丘と主要駅の近鉄藤井寺駅は日中は10分間隔、古市駅は20分間隔で近鉄バス、コミュニティバスが運行されている。

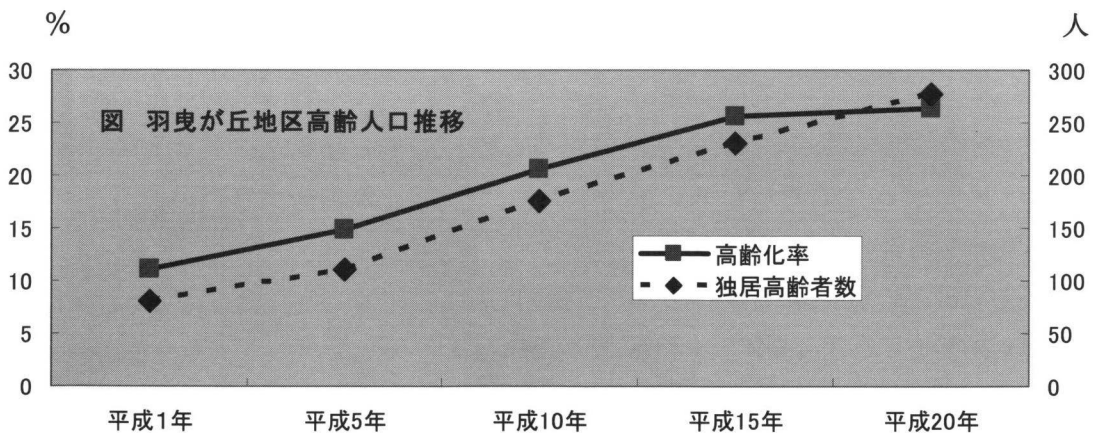
近年は第2・3世代稼働層の独立や転出等による人口の減少と、高齢者のみ世帯や、昼間独居高齢者・一人暮らし高齢者が増加している。

2) 人口・世帯数 (2009年3月)

羽曳が丘の人口、世帯は昭和30年度後半の大規模な住宅開発以降は増加してなかったが、平成16(2004)年頃以降になり小規模ではあるが更なる新住宅地開発により人口は緩やかではあるが増えている。住民の意識レベルは高く、経済的にはゆとりのある世帯も多いが、高齢者世帯数や高齢化率の速度は国や大阪府、羽曳野市と比べ早い。

羽曳が丘人口：10,468人 高齢者人口2,662人(高齢化率26.43% 独居高齢者278人)

羽曳野市人口：120,006人 高齢者人口25,201人(高齢化率21.0%)



	平成1年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年
羽曳が丘人口	9,144人	9,026	8,898	8,788	10,468
65歳以上人口	1,010人	1,347	1,840	2,245	2,662

2) 地域包括支援センター数 (2009年現在)

市の直営によるもの1ヵ所設置。市内を7地区に分割し、各ブロックに旧在宅介護支援センターがサテライトの役割を果たしている。見守り必要高齢者の実態調査は市が実施。さらに市内全域14小学校区全てに見守りネットワーク(ふれあい雅)体制を設けている。

2. 羽曳が丘見守り支援システム「ふれあいネット雅」校区福祉委員会活動

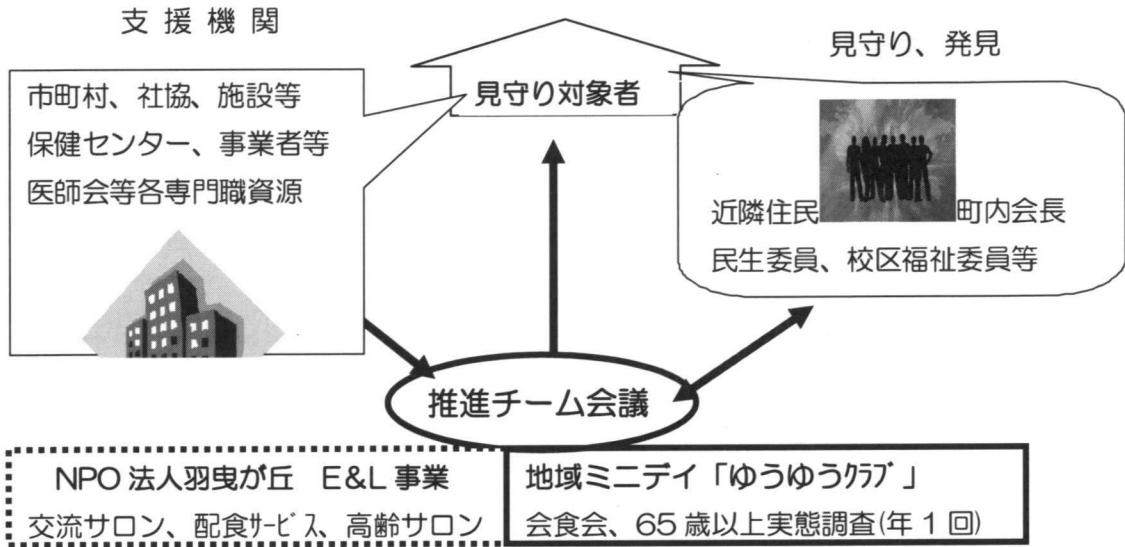


図 羽曳が丘見守りシステム(2010年1月現在)

<見守りの内容>

- ① 住み慣れた場所で安全に支障なく、健やかに暮らしているかどうかの確認。
- ② 独居等でコミュニケーションの少ない方や、訪問を希望される方には声かけ活動。
- ③ 支援の必要は認められるが支援を希望されない方には、通常行われていた雨戸の開閉、ゴミだし、新聞や郵便物の取り込みなどの日常生活活動の異変チェック。
- ④ 緊急時や異変が生じたときに、連絡・通報。

[校区福祉委員会の役割と活動]

- ① 見守りなどの個別援助活動やグループ援助活動
- ② 隣近所やさまざまな団体による見守りの輪づくり
- ③ 援助が必要な高齢者などの実態やニーズの把握
- ④ 地域と専門職が連携して高齢者などへ支援とサービス提供
- ⑤ 高齢者の生きがいや健康づくり・介護予防・ふれあい交流の推進
- ⑥ 地域社会資源の発掘・地域への情報提供・広報活動

役員構成
 町会連合会、老人会
 民生児童委員・保護司
 更生保護婦人会
 婦人会
 身体障害者団体
 ゆうゆうクラブ
 羽曳が丘まちづくり会
 は2004年NPO法人
 羽曳が丘 E&L へ移行

3. 羽曳が丘住民による「安全・安心のまちづくり」システム構築過程と活動展開

羽曳が丘住民ボランティア兼元民生委員地区長 原田恵美子氏へのインタビューにより作成

年次	住民行動	住民(ボランティア等)の活動	一般住民の反応・行動
1982(昭和57)年 1983(昭和58)年 1988(昭和63)年	無関心期	<ul style="list-style-type: none"> ・羽曳野市ボランティア連絡会結成され原田氏副会長就任。 ・原田氏民生児童委員に就任。 <p>1) 羽曳が丘独居老人等の世帯に対し緊急時の連絡先「あんしん SOS カード」を配布し、作成を呼びかける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>SOS カード：氏名、緊急時の連絡先、血液型 かかりつけ医院・病院など、</p> </div>	<p>「すべての市民が 24 時間 365 日安全・安心して暮らすために」を意図に配布。住民からプライバシーの侵害と反発多く、SOS カード作成は頓挫。</p>
1989(平成元)年	関心期	<p>2) 情報収集活動作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者アンケート調査1,010人 ・羽曳が丘 15 町内会(各種団体からの意見聴取) <p>3) 課題・認識の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽曳が丘各種住民組織が問題共有 ・全戸回覧版で高齢者問題共有を図る。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>「地域の一人暮らしの孤立・孤独何とか対策必要」</p> </div> <p>羽曳が丘全戸回覧版で住民の多数が高齢者問題を理解。</p>
1993(平成5)年		<p>4) 独居高齢者サポートグループ「出会い」の活動浸透</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原田氏羽曳が丘地区民生児童委員長に就任。 ・コミュニティーセンター「ももプラザ」開設。ここを拠点に保健所、市保健センターと共同モデル事業「地域リハビリテーション推進事業」開始 <div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・送迎ボランティア開始 ・昼食会導入 ・難病患者リハ、障害者リハ事業開始 ・独居老人の集い(H7年) ・独居高齢者サポートグループ支援 <div style="margin-left: 10px;"> </div> </div>	<p>羽曳が丘住民相互の高齢者支援ボランティア活動開始と併せ、活動の浸透を図る。</p>
1996(平成8)年	準備期	<p>5) 住民教育・研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護セミナー、福祉セミナー開催。 ・チラシによる住民ボランティアに応募者急増。 ・送迎ボランティア、おやつ作りボランティア <p>* 様々な啓発教育やボランティア活動は住民のまちづくりを考えるきっかけとなった。</p>	
1996(平成8)年	実行期	<p>6) 住民主体リハビリ「羽曳が丘ゆうゆうクラブ」開始 ← 独居高齢者サポートグループが受け皿となり住民主体による運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原田氏羽曳が丘ゆうゆうクラブを支える会会長 	
2002(平成14)年		<p>7) 「羽曳が丘まちづくりの会」を組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆうゆうクラブ、交流会、配食サービス ・青少年育成音楽祭、ブラスバンド音楽祭 ・トンボ池、ピオトープクラブ活動 	<p>[連携活動期]</p>
2004(平成16)年	継続期	<p>8-1) NPO 法人「羽曳が丘 E&L」誕生</p> <p>町会連合会、まちづくりの会、ゆうゆうクラブ等が参加、「羽曳が丘 E&L」設立。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活部：ゆうゆうクラブ・交流サロン、配食サービス子育て支援など。 ・環境部：自然環境保全、資源リサイクル、交流 ・管理部：広報・印刷、調査、標準葬儀事業等 	<p>[組織的活動期]</p>
2008(平成21)年		<p>8-2) 各事業の拡大・明確化と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業の発展に向けた内容評価実施 ・見守りネットワーク事業拡大(高齢者子ども) ・見守りネットワーク用の虐待判断基準作成 ・認知症高齢者対応キッズサポーター育成 	<p>・子育て支援ネットワークの拡大を図り、高齢者見守りネットワークと協働による活動の一層の活発化を図る。</p>

4. 羽曳が丘民生委員、住民有志による高齢者支援活動、まちづくり活動の歴史に学ぶ

行動変容モデル(Transtheoretical Model)の各ステージと、セルフエフィカシー(自己効力感)やファミリーストレングス(強み)などの介入理論を当てはめ分析してみる。

<無関心期>

1) 羽曳が丘独居老人等の世帯に対し緊急時の連絡先「あんしん SOS カード」配布活動から

原田氏が羽曳が丘民生委員会として住民個人・近隣住民の安心・安全生活支援活動の一環として実施したが、住民からプライバシーの侵害と反発され SOS カード作成は頓挫。

ヒント 羽曳が丘の将来人口構造、特に独居高齢者の増加を予測した上での必要と判断した活動ではあったが、住民への啓発活動不足が理解されず反発を招き中止となった。

<関心期>

2) 高齢者アンケート等実態調査活動などによる情報収集活動作業から

住民への啓発手段として、次の手法を用いて情報収集活動を行っている。

- ① 羽曳が丘高齢世帯への実態調査
- ② 実態調査結果の広報・回覧による報告と課題の提示
- ③ 前述の①、②の活動を毎年実施し、結果を全世帯にフィードバック

ヒント 実態調査の実施結果を広報・回覧することにより全住民が高齢者の生活実態を理解すると共に、この地域で今後高齢者が安心安全に住み続けるための生活上取り組む必要性のある課題を住民全体で共有できるまでに至った。

<準備期>

3) コミュニティセンター設置により、ボランティアグループ活動の活発化

- ④ 独居高齢者サポートグループの拠点としてコミュニティセンターでの活動開催、集会可能
- ⑤ 身近なコミュニティセンターでの介護・福祉関連の住民教育・研修の実施
- ⑦ 保健所、市保健センターとの共同によるモデル「地域リハビリテーション推進事業」開始

ヒント 住民教育・研修の実施の拠点が身近にできたことにより、介護・福祉関連啓発教育が活発に行われたことで、高齢者サポートボランティア志望者の急増に繋がった。

また、保健所、市保健センターとの共同でのモデル「地域リハビリテーション推進事業」へのボランティアとして地域住民が多数参加していた。これが事業の進め方のノウハウを多くの住民が学ぶ機会となり、住民主体の自立した事業開始につながった。

<実行期>

4) 住民主体、自主運営によるリハビリテーションケア事業の開始から

- ⑧ 住民の自主運営による「羽曳が丘ゆうゆうクラブ」事業の開始
- ⑧ 「羽曳が丘ゆうゆうクラブ」事業開始後、「羽曳が丘まちづくりの会」事業と連携、支援を受け、郊外での風景を楽しむプログラムの企画、幼稚園児や青少年活動、大学生との交流・支援など、様々な年齢層との交流・社会参加がゆうゆうクラブ事業を一層充実・活発化させた。

ヒント 保健所、市保健センターとの共同によるモデル「地域リハビリテーション推進事業」に地域住民が多数参加し、事業の進め方のノウハウを学んだことが、住民主体によるリハビリテーションケア「羽曳が丘ゆうゆうクラブ」開設・運営につながっている。また、「羽曳が丘まちづくりの会」と連携・支援を得て「羽曳が丘ゆうゆうクラブ」の活動の充実・活発化につながっている。

<維持期>

5) NPO 法人「羽曳が丘 E&L」を町会連合会、まちづくりの会、ゆうゆうクラブ等が参加し設立

⑨ 羽曳が丘地域の環境と生活の調和をはかるまちづくりを目指しNPO 法人「羽曳が丘 E&L」誕生

⑩ 羽曳が丘地域内の様々なまちづくり組織を「羽曳が丘 E&L」に統合一体化

ヒント 町会連合会、まちづくりの会、ゆうゆうクラブ他様々な等が参加、NPO 法人を設立。活動目的は安全・安心・快適に暮らせるまちづくりである。住民主体で設立、現在実施中の各事業を継続・維持・発展させていくため、次の組織を構築・運営している。

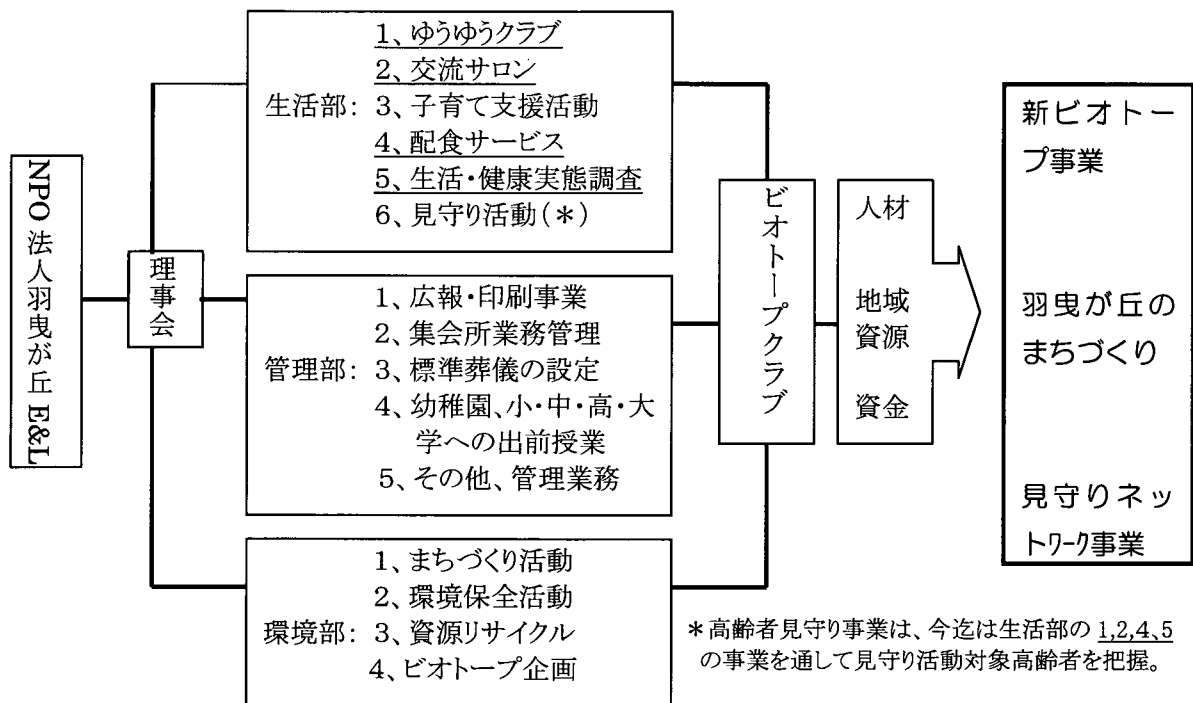


図 NPO 法人 羽曳が丘 E&L の組織

まとめ

行動変容モデルの各ステージにあてはめ、分析した中から得られた各活動グループの連携→重層・組織的活動→あらゆる年齢層を包括する組織的活動は、これから高齢者等のセルフ・ネグレクトや困難事例の早期発見、対処システム構築に取り組む市町村に参考になるとともに、人・環境にやさしいまちづくりのあり方を示唆していると考えます。

今回の視察に快く応じていただき、本章の図をはじめ、様々な資料提供をいただきました羽曳が丘元民生委員地区長原田恵美子氏、西田政弘氏、羽曳野市地域包括支援センター尾久聖子保健師に心から感謝を申しあげる。

記録：津村智恵子(甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科)

ゆうゆうクラブの一日

はじめに
血圧測定



リハビリ体操



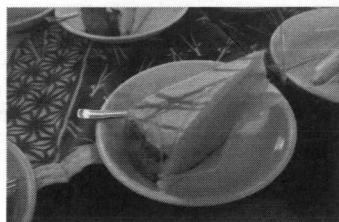
昼食



食事風景

食後の談話
& トランプ遊び

おやつ



視察3 室蘭市の高齢者見守り組織活動・ネットワークづくりの取組み

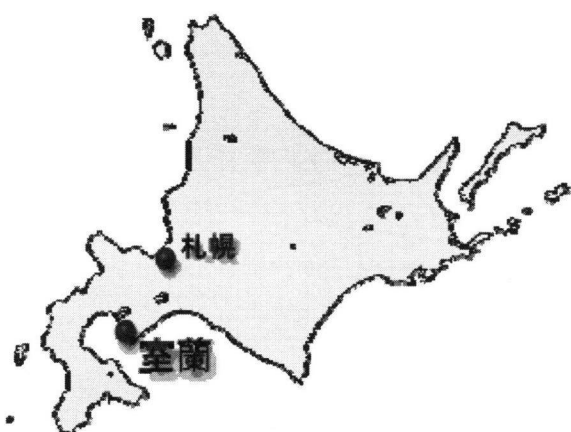
視察者：桃山学院大学社会学部社会福祉学科 川井太加子

大阪市立大学医学部看護学科 金谷志子

協力：室蘭市役所 保健福祉部介護福祉課 課長 清水洋一

室蘭市役所 保健福祉部介護福祉課 認定予防担当主幹 小西礼子

1 室蘭市の概要



面積 80.65km²

人口 96,050人

65歳以上高齢者 27,882人

高齢化率 29.0%

世帯数 47,832世帯

1世帯当たりの人員 2.0人/世帯

2009年3月31現在

北海道道央南部に位置し、太平洋に面し伊達市および登別市に接している。東西約12km、南北約15km、面積80.65km²で、三方を海に囲まれた坂の多い町である。明治初期に室蘭港が開港し、鉄鋼業を中心として、造船、石炭の積み出し、石油精製などで発展した北海道を代表する工業都市である。最盛期には人口が180,000人（1969年）を超えたが、1970年代後半以降人口は減少が続き、現在は人口約96,000人である。高齢者数は、28,882人、高齢化率29.0%、高齢化が進行している。沢沿いに集落が形成され、自治会・町会組織が172活動している。

2 室蘭市の高齢者見守り組織体制について

室蘭市では、第3期介護保険事業計画(平成18年)より高齢者が介護や支援が必要になっても、地域で安心して暮らし続けられるよう、地域包括支援センターを核として、2つの新規事業を立ち上げ、高齢者を地域全体で支える地域ケア体制の構築に取り組んでいる。新規事業の一つは、認知症になっても安心して住み慣れた地域で暮らし続けられるように、認知症の人やその家族を地域で支援する認知症見守りネットワーク(オレンジネット)である。もう1つの事業は、地域全体で、高齢者を孤立や災害、犯罪から守り、生活をサポートする組織「高齢者見守り隊・たすけ隊」である。

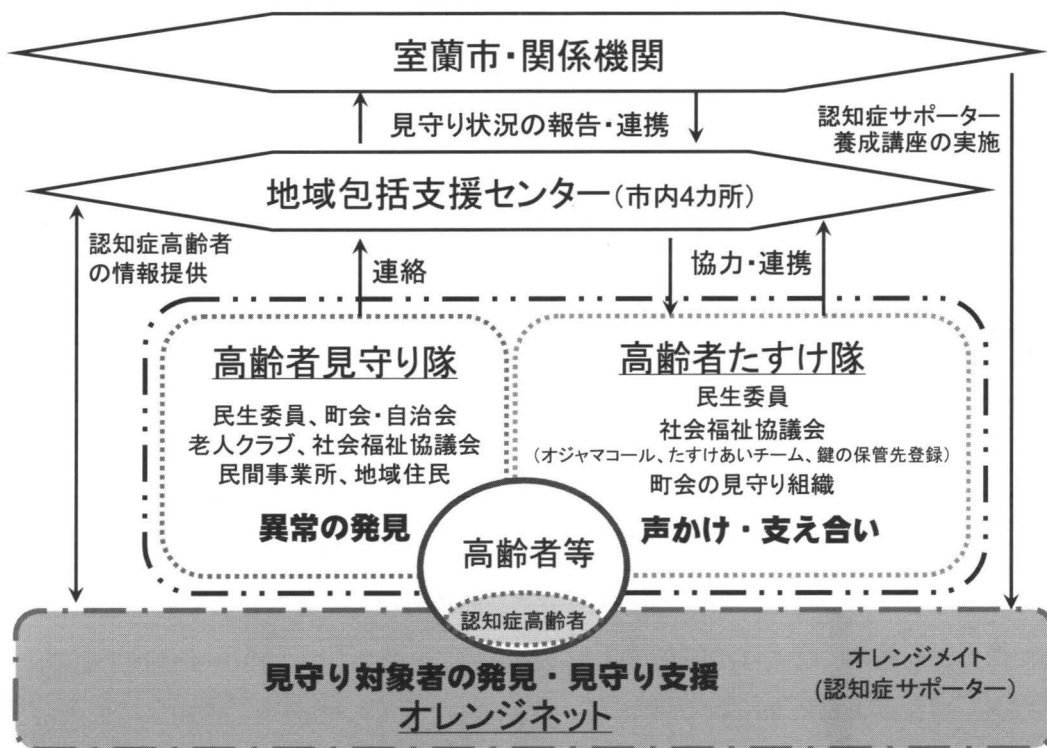


図1 室蘭市地域たすけあいネットワーク